

ものづくり愛知県における安全・安心な生活基盤の確保（防災・安全）

計画概要

◆計画期間

平成22年度～平成26年度(5年間)

◆計画の目標

洪水や高潮との闘いの歴史を継承し、地域と連携して平野部を中心としたハード対策や大規模災害に備えた施設づくりを実施し、風水害に対して安全・安心な地域を形成する。

◆計画の成果目標(定量的指標)

指標①: 当面の計画規模の降雨に対し未だ浸水被害を受ける可能性のある戸数を114,463戸から104,648戸に減少。

指標②: 県内の河川改修が必要な区間の整備率を53%(H21末)から55%(H26末)に増加。

指標③: 津波・高潮災害および海岸浸食による浸水面積を、14,779ha(H22当初)から8,129ha(H26末)へ減少させる。

指標④: 河川管理施設のライフサイクルコスト縮減を図るため、44河川管理施設について長寿命化計画を策定する。

指標⑤: 長寿命化計画に基づき、16基の排水機場の延命化を行う。

指標⑥: 水害状況の早期把握、水害の伝達時間の短縮のため、水位観測網を156箇所(54河川)から334箇所(153河川)に拡充する。

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
A 河川事業、海岸事業	49,554百万円	安永川、日光川水閘門、五条川等の河川事業について護岸改修、橋梁改築、施設延命化等を実施。 豊橋海岸を始めとする海岸堤防の耐震化等を実施。	77.1%
B 関連社会資本整備事業	40百万円	日光川防災道路整備関連の道路整備工事を実施。	16.9%
C 効果促進事業	566百万円	洪水ハザードマップ作成、防災ステーションの整備等の効果促進事業を実施。	39.3%
合計	50,160百万円		

※事業費は実績額

※進捗率(%)は各事業の計画に対する実施割合【事業費ベース】

※B 関連社会資本整備事業及びC 効果促進事業については、計画の一部を他事業費により実施

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

・安永川都市基盤河川改修事業により、トンネル入口部から下流の合流樋門までのL=2.6km(第1期区間)が完成し、年超過確率1/10の洪水を安全に流下させることができるようになった。(別紙1)

・新川総合治水対策特定河川事業(五条川)により、橋梁改築工や堰撤去等を実施し、著しく河道を阻害していた構造物を除去することができた(別紙2)

・老朽化している河川管理施設の整備・更新等の維持管理を効果的かつ効率的に実施し、機能保持を図り施設の信頼性確保に寄与した。(別紙3)

Ⅱ 定量的指標の達成状況

指標①(当面の計画規模の降雨に対し浸水被害を受ける可能性のある家屋数が、河川改修等による対策が講じられることにより軽減される家屋数。)

最終目標値	104,648戸 (9,815戸減少)	目標値と実績値に差が出た要因	本計画における交付金事業費の減少により、事業計画に遅れが生じたため。
最終実績値	107,881戸 (6,582戸減少)		

指標②(堤防等の機能保持に努め、県内の河川改修が必要な区間の河川整備率(%)
=(河川改修が当面の計画規模で完了した区間延長)/(県内の河川改修が必要な区間延長))

最終目標値	55% (名古屋市委譲河川含む)	目標値と実績値に差が出た要因	—
最終実績値	55% (名古屋市委譲河川含む)		

指標③(津波・高潮時における浸水被害を受ける可能性のある面積および海岸侵食される可能性のある面積)

最終目標値	8,129ha (6,650ha減少)	目標値と実績値に差が出た要因	(概ね目標を達成)
最終実績値	8,182ha (6,598ha減少)		

指標④(河川管理施設の長寿命化計画策定率(%)=(長寿命化計画策定の河川管理施設)/(河川管理施設))

最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	整備計画策定後に発生した東日本大震災を受けて改訂された耐震性能照査指針に基づき、排水機場及び水門等の耐震照査を実施したこと。また、その照査結果に基づいた改築等の耐震対策の内容を踏まえ、長寿命化計画の策定を見直すこととなったため。
最終実績値	61%		

Ⅱ 定量的指標の達成状況

指標⑤(排水機場(日光、蟹江、鴨田、中江、水場、青木川放水路、筏(第1、第2)、鍋田川(上流、下流)、西中野、西條小切戸、流れ川(第1、第2)、水干、発杭)の機能保持率(%))
 = (機能保持排水機場数) / (16排水機場)

最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	—
最終実績値	100%		

指標⑥(観測網(%)) = (水位観測網等を整備した箇所数) / (対象流域内の水位観測網等が必要な箇所数)

最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	災害対策基本法・水防法改正にともない水位観測の拡充を図るため、水防テレメータシステム更新にあわせて、水位観測網の配置計画を見直すこととしたため。
最終実績値	63%		

Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)

・日光川大規模河川管理施設機能確保事業により、建設後50年以上が経過し、老朽化の進行や地盤沈下などにより機能が低下するとともに、大規模地震に対する耐震性が不足しており、また、計画流量に対し洪水流下障害となっていた同施設の本体工の改築を行ったことにより、機能が確保された。
 (別紙4)

◆今後の方針

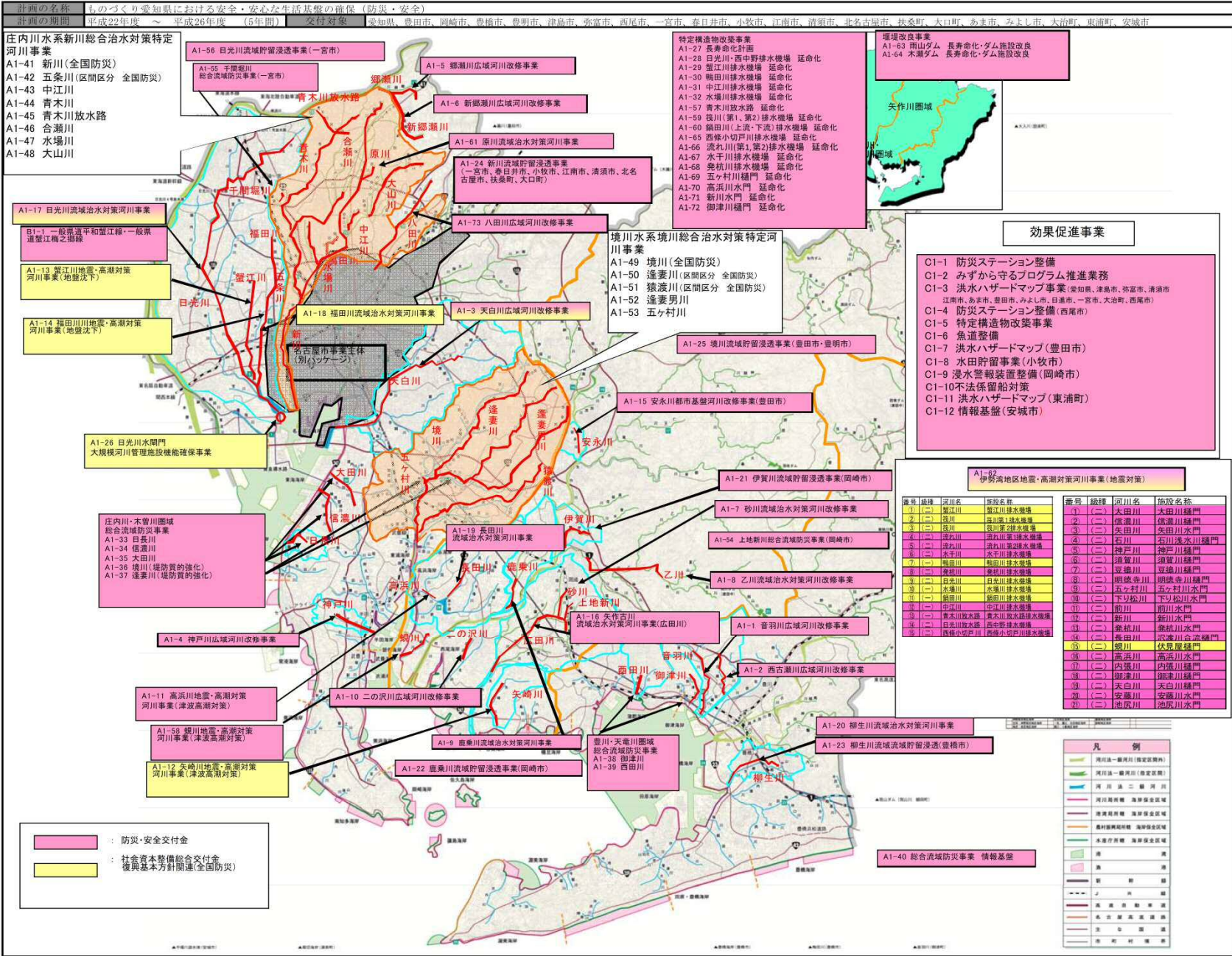
- ・洪水や高潮との闘いの歴史を継承し、地域と連携して平野部を中心としたハード対策や大規模災害に備えた施設づくりを実施し、風水害に対して安全・安心な地域を形成するため、H27年度から新たな計画を策定し、河川・海岸整備によりその実現に努める。
- ・未完了の事業については、早期整備完了を目指す。

◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	策定主体にて評価を実施。
事後評価の実施時期	平成29年3月
公表の方法	WEBページ公開 (http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kasen/0000039039.html)

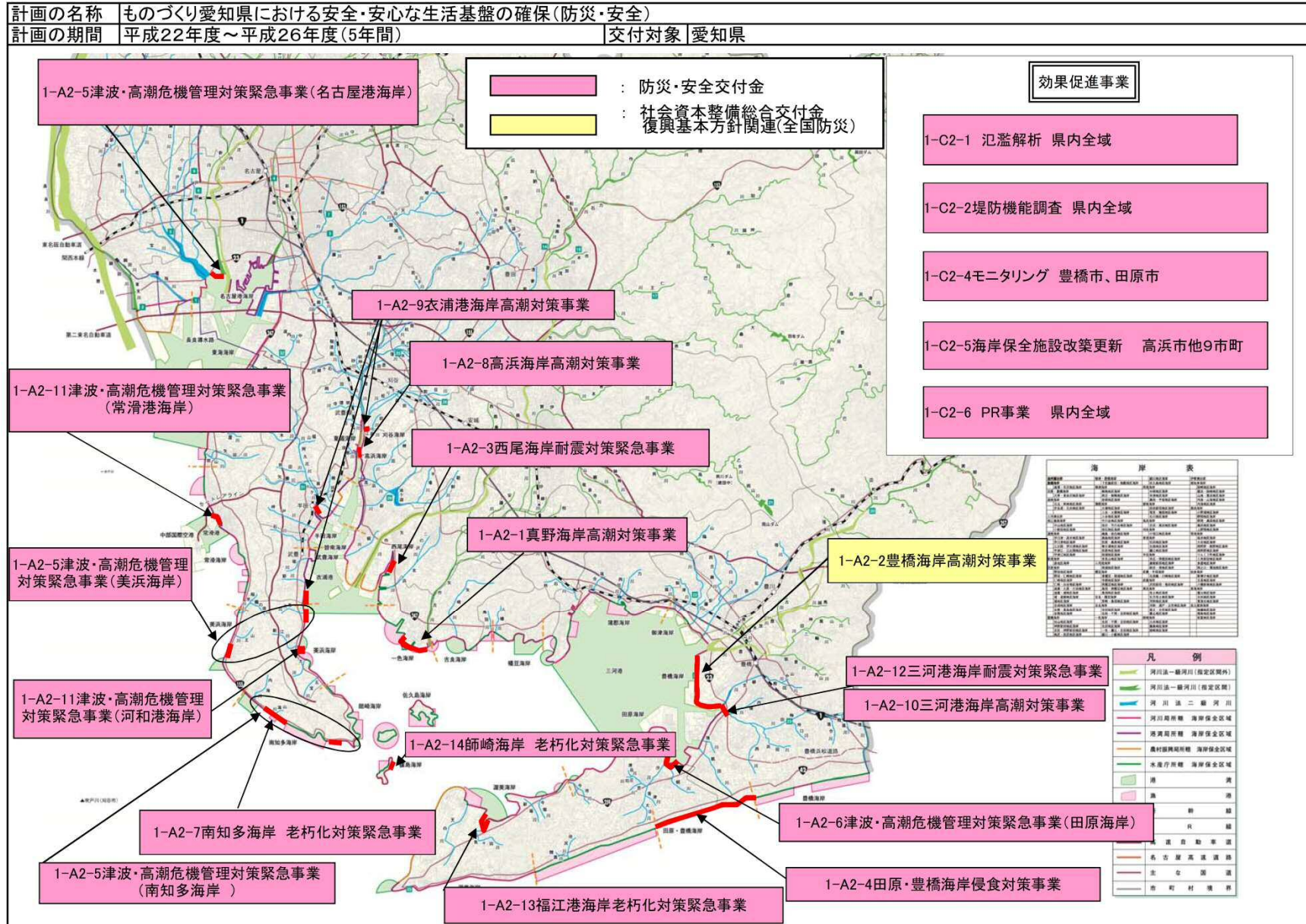
参考図面

【図面】(河川事業)



参考図面

【図面】 (海岸事業)



【基幹事業】

■事業名

安永川都市基盤河川改修事業

■工事概要

安永川は豊田市の中心市街地を流域とし、延長3.5kmの内、約1.3kmが昭和10年代に築造された河川トンネルである。その流下能力は年超過確率1/1程度(流下能力10m³/s)と極めて低く、平成12年9月の東海豪雨では床上・床下あわせて145戸が浸水被害を受けることとなった。このことから、平成14年度から都市基盤河川改修事業を実施し、そのうちのトンネルから下流の合流樋門までの第1期区間が完成したことにより年超過確率1/10の治水安全度が確保された。

■事業箇所

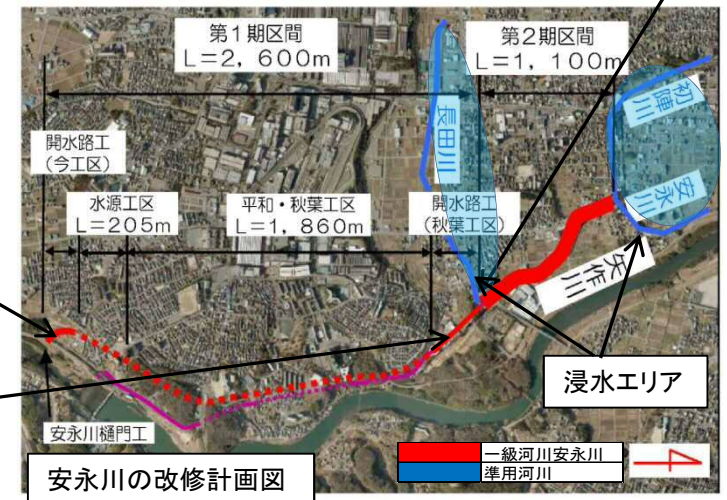
豊田市

■事業主体

豊田市

■事業効果

第1期区間の通水効果により床上浸水被害予測19ha低減。



【基幹事業】

■事業名

新川総合治水対策特定河川事業(五条川)

■工事概要

犬山市、大口町、岩倉市、一宮市、北名古屋市、清須市、あま市を縦貫する五条川は、平成12年の東海豪雨等により浸水被害が発生している河川である。青木川合流点より下流においては、年超過確率1/30、青木川合流点より上流は年超過確率1/10の規模の降雨による洪水を安全に流下させることを目標とし、下流より順次、河床掘削、河道拡幅等を行っている。

■事業箇所

一宮市、小牧市、稲沢市、岩倉市、清須市、北名古屋市、あま市

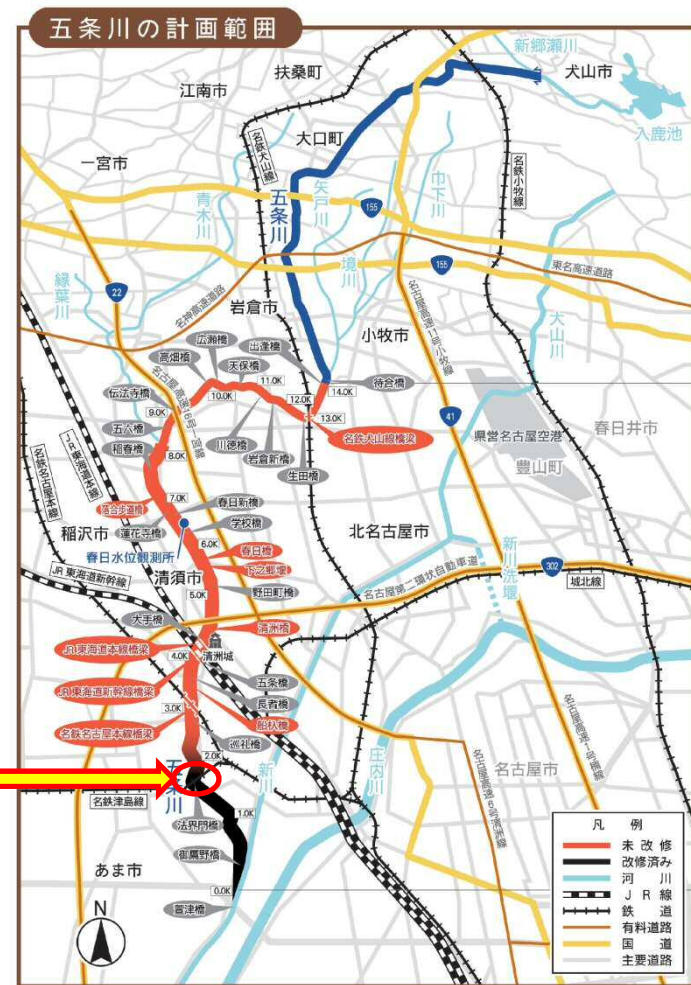
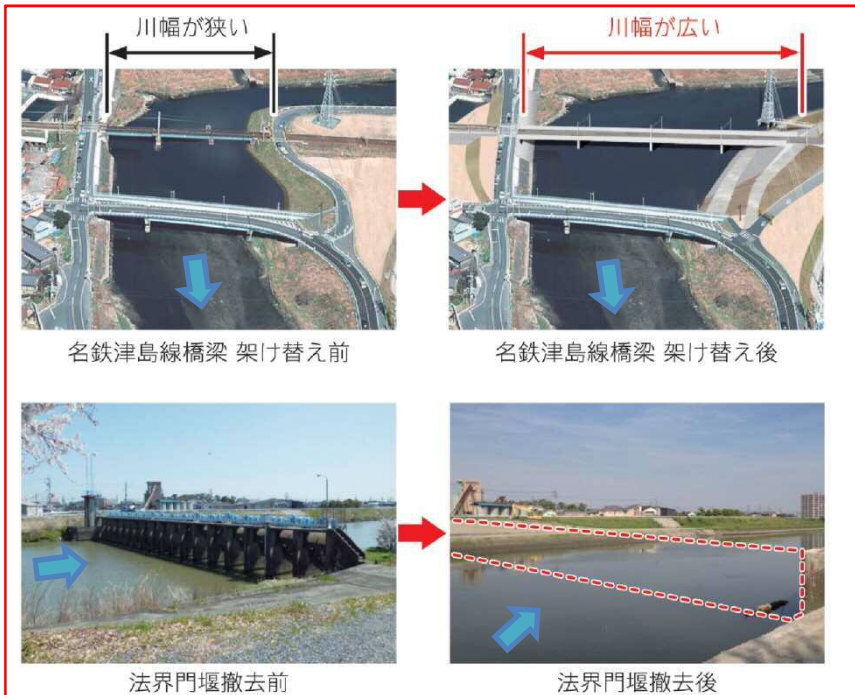
■事業主体

愛知県

■事業効果

橋梁改築工や堰撤去等を実施したことにより、著しく河道を阻害していた構造物を除去することができた。

工事施工前・施行後写真



14.2K
 ↑ 工事施行区間 (河川整備計画)
 ↓ 新川合流点 0.0K

凡例

—	未改修
—	改修済み
—	河川
—	JR線
—	鉄道路線
—	有料道路
—	国道
—	主要道路

【基幹事業】

■事業名

日光川排水機場特定構造物改築事業

■工事概要

日光川排水機場は、昭和49年・昭和51年の集中豪雨による被害を契機に、毎秒100m³/sの能力を有した排水ポンプを昭和53年に供用開始している。ポンプ設置から30年以上経過し、物理的劣化が進行し、機器の性能の低下や故障等が生じているため、平成22年度に策定した長寿命化計画に基づき、平成24年度及び平成25年度に1号・2号主ポンプ原動機の分解整備等を実施した。

■事業箇所

海部郡飛島村大字梅之郷地先

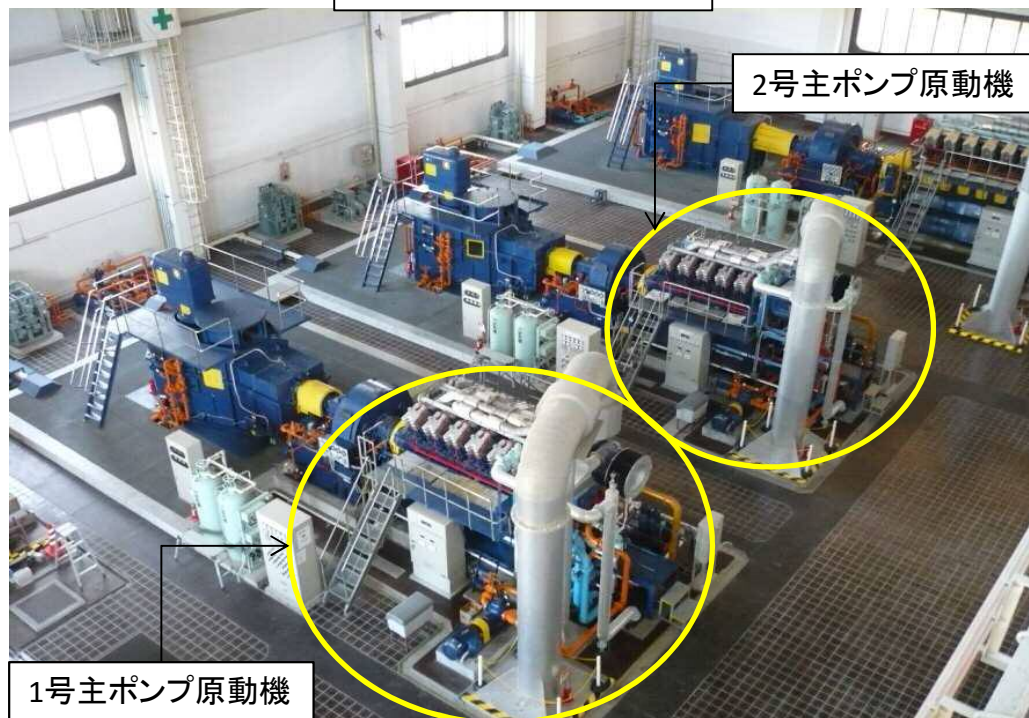
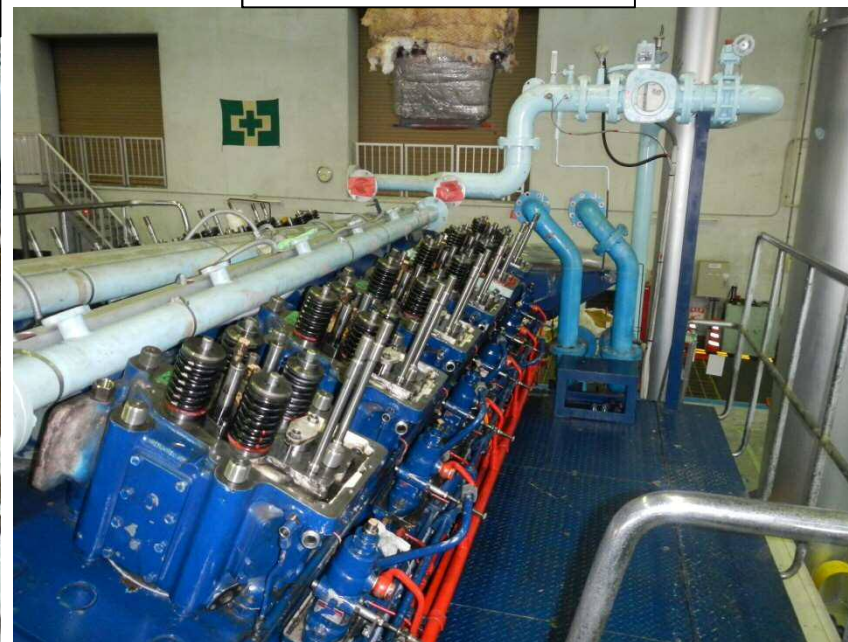
■事業主体

愛知県

■事業効果

老朽化している設備・装置等の整備・更新等の維持管理を効果的かつ効率的に実施し、施設の信頼性確保に寄与した。

日光川排水機場

1号主ポンプ原動機
(分解中の様子)

【基幹事業】

■事業名

日光川大規模河川管理施設機能確保事業

■工事概要

日光川水閘門は、建設後50年近くが経過し、本体の老朽化が著しく、近い将来発生が危惧される東海地震、東南海・南海地震が発生した際には、損傷により機能が損なわれる恐れがあること、また、地盤沈下の影響により高潮に対し必要な高さが不足していることなどから、改築が急務となっていた。流域を洪水や高潮及び地震の被害から守るため、平成22年度より水閘門改築に着手し、H26年度に本体工が完成した。

■事業箇所

海部郡飛島村大字梅之郷地先

■事業主体

愛知県

■事業効果

老朽化の進行や地盤沈下などにより機能が低下し、大規模地震に対する耐震性が不足していたが、日光川水閘門本体工が完成したことにより、機能不全要因を解消できる目処がついた。

日光川流域

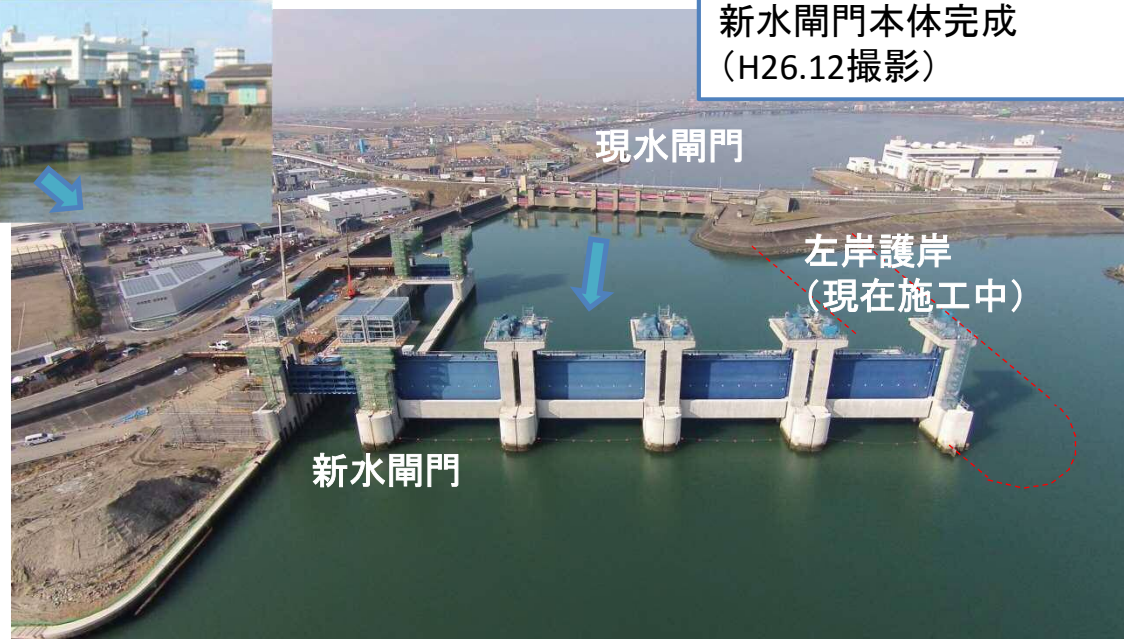


現水閘門(H21撮影)



目違い・クラックが発生

新水閘門本体完成 (H26.12撮影)



現水閘門

新水閘門

左岸護岸 (現在施工中)